

の左右に切り込みを入れたもの。

049型式
長方形の材の一端を羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによつて原形の失われたもの。

051型式 長方形の材の一端を尖らせてたるもの。
長方形の材の一端を尖らせてたもの。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。
065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

061型式
用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。
065型式
用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損、腐蝕その他によつて原形の判明しないもの。

091型式 削屑。

なお、中世・近世の木簡については、以上の型式番号に適合しないものが多いので、註記を省略する場合がある。

一、この凡例は木簡出土事例報告に関するものであり、論文などに

一、英文目次は天理大学のW・エドワーズ氏にお願いした。

木簡学会役員	(一九〇七・一九〇八年度)
會長	柴原永遠男
副會長	
委員	
監事	
評議員	
館野 和己	鐘江 宏之
鷺森 浩幸	鈴木 景二
馬場 泰寿	鶴見 基
山本 崇	吉川 真司
吉川 隆雄	今泉 石上
佐藤 狩野	佐藤 幸久
平川 和田	平川 萩原
櫛木 征夫	柳木 謙周
佐竹 昭	角谷 常子
寺崎 保廣	古尾谷 知浩
坂上 康俊	吉川 吉江
佐藤 信	西山 渡辺
田熊 誠	岡村 小谷
土橋 聰	清水 みき
吉川 勝山	博泰 道雄
山中 章	良平 晃宏
坂上 康俊	李 東野
佐藤 信	小林 昌二
田熊 誠	成市 治之
土橋 聰	勝山 清次

一一〇〇七年出土の木簡

概要

本号には、昨年度の研究集会で「一一〇〇七年出土の木簡」として報告されたものを中心に、七七件の遺跡から出土した木簡を収載することができた。このほか、「一九七七年以前出土の木簡」として一件、「釈文の訂正と追加」として四件も収録している。日々の調

たり、過去の出土例を丹念に追跡した結果であるとすべきであろう。これらすべての資料は、たとえ文字が釈読できなくとも、その遺跡で文字を使った何らかの営みがあつたことを示すものであるから、等しく価値を有するものである。従つて、本来は取捨選択になじまないが、紙幅の都合もあるので、全体の傾向と筆者の関心に従い、時代順に注目すべきものを取り上げて概要を紹介していくことにしたい。

七世紀の木簡が発掘された遺跡として、まず奈良県石神遺跡が挙げられる。当遺跡は、文献史料の少ない時代にあって、継続的な調査により、貴重な知見を提供し続けている。五十戸制下の養米付札、代制に基づく地積を記したとみられる木簡など、七世紀木簡として特徴的なもののほか、人名を記す贊の荷札木簡が出土していることが注意される。

また、奈良県安倍寺跡では、五十戸制下の荷札木簡とともに、塔の造営に関わる木簡が出土している。ここでは造営や手工業に関係する遺物も伴出しており、出土地の性格を踏まえ、総合的に理解する必要がある。